龍谷大学龍谷学会
「龍谷大学論集」第479号　抜刷
平成24年３月（2012・３）発行

『業施設』和訳研究（1）

――第１章第１節（付：『故思経』諸本対照テキスト）――

青　原　令　知

『業施設』和訳研究 (1)

——第1章第1節（付：『故思経』諸本対照テキスト）——

青　原　令　知

チベット訳のみ現存する『業施設』（*Las gdags, Karma-prajñapti*）について、筆者はこれまで若干の論考を発表してきた[1]が，これより数回に分けて本論の和訳を試みることにする。

周知のように『業施設』は黎明期の説一切有部論書である『施設論』の第三篇をなしている。この『施設論』については，昭和初期の学者加藤清の遺した全訳ノートが存在することが同朋大学の福田琢によって公にされ，福田はこの加藤ノートにもとづいて第一篇『世間施設』および第二篇『因施設』の和訳と校訂テキストを順次公表している[2]。筆者はかつて福田の好意により加藤ノートの『業施設』の部分のコピーを戴き，そのとき福田から『業施設』については筆者に託すような意味のことを言われた。社交辞令半分に受け止めた筆者としては，福田の全訳が完了するのを待ちたかったのだが，折角の好意をいつまでも放置しているわけにもいかず，ようやく公表に踏み切った次第である。この場をお借りして氏に感謝するとともに，遅きに失したことをお詫びしたい。

拝見した加藤ノートには当時参照しうる他の資料との対応が詳細にメモされており，非常に有益であった。以下の和訳においてはこの加藤ノートを随時参照しながら進めるが，翻訳自体は筆者の責任においてなされた訳文であることをお断りしておく[3]。

今回扱うのは『業施設』全十一章のうち第一章第一節，すなわち冒頭に経文（『故思経』）が引用される箇所にとどめた。分量的にはわずかなものだが，この引用経典は『業施設』全体の骨格を形成するモチーフとして掲げられた重要な教証であり，またチベット訳・漢訳・パーリ経典および梵文断片の対応文が種々回収されるので，付論として諸訳・諸本の対照テキストをつけることにした。

また紙数の関係上，解題的説明や凡例等はすべて次回（『仏教学研究』第68

号掲載予定）に譲る。

《テキスト・参考文献》（不記載の略号は慣例に準ずる）

Ⓓ Derge edition (*The Tibetan Tipitaka Taipei Editon*, Taipei Taiwan 1991).

Ⓟ Peking edition (*The Tibatan Tripitaka Peking Edition*, ed. by Daisetz T. Suzuki, Tokyo-Kyoto Japan 1957).

Ⓝ Narthang edition (Prints preserved at Ryukoku University Library).

Ⓣ 大正新脩大藏經（大蔵出版）

AKBh *Abhidharmakośabhāṣyam of Vasubandhu*, ed. by P.Pradhan, Patna 1967.

AN *The Aṅguttara-Nikāya*, Pali Text Society, London.

AKU *Abhidharmakośaṭīkopāyikā* (*Chos mngon pa'i mdsod kyi 'grel bshad nye bar mkho ba*), ⒹNo. 4094 (Taipei No. 4099); ⓅNo. 5595.

DN *The Dīgha Nikāya*, Pali Text Society, London.

DS *Dharmaskandha* (=Dietz [1984], Matsuda [1986]).

KP (『業施設』) *Karmaprajñapti* (*Las gdags pa*), Ⓓ No. 4088 (Taipei No. 4093) i172b4-229a7; ⓅNo. 5589 khu208b2-281a8; Ⓝkhu191a3-251a5.

SA *Sphuṭārthābhidharmakośavyākhyā*, ed. by U. Wogihara, Tokyo 1932-36.

Dietz, Siglinde [1984] *Fragmente des Dharmaskandha - Ein Abhidharma-Text in Sanskrit aus Gilgit*, ed. by Siglinde Dietz, Göttingen.

Matsuda, Kazunobu [1986] *Newly Identified Sanskrit Fragments of the Dharmaskandha in the Gilgit Manuscripts (1) Sanskrit Fragments Transliterated*, by Kazunobu Matsuda, Bun'eido Kyoto.

青原令知［2009a］「『業施設論』の構造」印仏研究57-2

［2009b］「『業施設』における煩悩の総称語」印仏研究58-1

［2010］「『業施設論』の業論と表・無表分別」『佛教学研究』66

荒井行央［1981］「業施設論の翻訳(1)」東洋大学大学院紀要18

福田　琢［1998］「加藤清遺稿 蔵文和譯『世間施設』(1)」同朋佛教34

［1999］「同(2)」同朋佛教35

[2000]「同(3)」同朋佛教36
[2001]「同(4)」同朋大学論叢84
[2002]「同(5)」同朋大学論叢85・86
[2004a]「同(6)」同朋大学論叢89
[2004b]「同(7)」同朋佛教40
[2007]「加藤清遺稿 蔵文和訳『因施設』(1)」同朋佛教43
[2009]「北京・デルゲ対校 チベット文『世間施設』第2巻」同朋大学論叢93
本庄良文 [1994]「シャマタデーヴァの傳へる阿含資料—業品(3) [4053]-[4082] —」神戸女子大学紀要文学部篇27

〔本文和訳〕

標題 (Ⓓi172b4 Ⓟkhu208b2 Ⓝkhu191a3)

『業施設』を奉る。

インド語でKarmaprajñapti。

チベット語でLas gdags(業施設)。

三宝に礼拝する。

第1章 思業 (Ⓓ172b4 Ⓟ208b3 Ⓝ191a3)

目次偈(uddāna)。

[1] 故意と [2] 思と [3] 過去と [4] 善と

[5] 所縁と [6] 欲界 [7] 偈頌と [8] 業の包摂

1-1. 経文(故思経[4]) (Ⓓ172b5 Ⓟ208b4 Ⓝ191a4)

1-1-1. 序分

このように私はお聞きした。あるとき世尊はシュラーヴァスティにて,ジェータ王子の林・アナータピンディカの庭園におられた。そのとき世尊は比丘たちにお告げになった。

1-1-2. 三種の故意業 (Ⓓ172b6 Ⓟ208b6 Ⓝ191a5)

——比丘たち,私は,故意の(saṃcetanīya)[業をなして[5]]集積した者には

異熟が受用されると教示する。しかもそれは現世と次生と次次［世］に受用されるべきものである。比丘たち，その中で，身によって故意の［業をなして］集積した者が不善で苦を生じ異熟が苦となるのは，三種である。語については四種である。意については三種である。

1-1-3. 身の三業（Ⓓ172b7 Ⓟ208b8 Ⓝ191a7）

比丘たち，身によって三種の故意の業をなして集積した者が不善で苦を生じ異熟が苦となるのは，どのような者か。

1-1-3-1. 断生命者（Ⓓ173a1 Ⓟ209a1 Ⓝ191a7）

断生命（殺生(6)）の者(prāṇātipātin)。［彼は］凶暴になって掌を血に染め，害したり殺すことに固執して恥じることなく，すべての有情・生類に対して，蟻にいたる生類にさえも，憐れみをもたない。彼は断生命を離れない(7)。

1-1-3-2. 不与取者（Ⓓ173a2 Ⓟ209a3 Ⓝ191b1）

不与取（偸盗）の者(adattādāyin)。彼は集落あるいは閑処から，与えられていないものを盗みをたくらんで奪い，不与取を離れない。

1-1-3-3. 欲邪行者（Ⓓ173a2 Ⓟ209a3 Ⓝ191b2）

欲邪行（邪婬）の者(kāmamithyācārika)。［彼は］他人の妻・他人の夫人・他人に所属する者，たとえば母に保護され，あるいは父に保護され，あるいは兄弟に保護され，あるいは姉妹に保護され，あるいは義母に保護され，あるいは義父に保護され，あるいは同族に保護され，あるいは親戚に保護され，あるいは一族に保護された者，あるいは処罰のある者，あるいは障害のある者といった者たちや，花鬘を飾る者（花嫁）にいたるまでも，そのような類いの者に対し愛欲の煩悩(8)によって性交渉にいたる。彼は欲邪行を離れない。

1-1-3-4. 身業結語（Ⓓ173a5 Ⓟ209a8 Ⓝ191b4）

比丘たち，このように，［身によって(9)］三種の故意の業をなして集積した者は，不善で苦を生じ異熟が苦となる。

1-1-4. 語の四業（Ⓓ173a5 Ⓟ209a8 Ⓝ191b5）

比丘たち，語によって(10)四種の故意の業をなして集積する者が不善で苦を生じ

異熟が苦となるのは，どのような者か。

1-1-4-1. 虚誑語者（Ⓓ173a6 Ⓟ209b1 Ⓝ191b6）

虚誑語（妄語）の者(mṛṣāvādin)。彼は仲間の中にあり，あるいは大衆の中にあり，あるいは王宮の中にあり，あるいは親戚の家の中にあって，証言者(sākṣin)として質問されて「男子よ，あなたは知っていることを語れ。知らないことは語るな。見ていることを語れ。見ていないことは語るな。」と言われて，彼は知らないのに知っていると言い，知っているのに知らないと言い，見ていないのに見ていると言い，見ているのに見ていないと言う。彼は自分のために，あるいは他人のために，あるいはわずかの肉片のために，承知の上で［虚偽に語り］，虚誑語を離れない。

1-1-4-2. 離間語者（Ⓓ173b1 Ⓟ209b5 Ⓝ192a1）

離間語（両舌）を話す者(paiśunika)。［彼は］こちら側から［話を］聞いてから，彼らを引き離すためにあちら側に出向いて行って告げ口をして，また彼らから［話を］聞いて，こちら側を引き離すためにこちら側に出向いて行って告げ口をする。そのように，結束した者たちを引き離し，また引き離された者たちを助長し，不和を欲し，不和を喜んで，不和をしむける言葉を語り，離間語を離れない。

1-1-4-3. 麁悪語者（Ⓓ173b3 Ⓟ209b7 Ⓝ192a3）

麁悪語（悪口）を語る者(pāruṣika)。彼は言葉がやさしくて耳ざわりがよく，意に適い，好ましく，望ましく，優雅な会話であり，美声であり，奥ゆかしく，含意が適切であり，聞きやすく，大衆の心を引きつけ，大衆に親しまれ，大衆に喜ばれ，大衆の意識に刻まれ，安定して，三昧に到るような［言葉］や，同様の類いの言葉を捨てて，言葉に刺があり，粗暴で，他に威圧的で，他を叱責し，大衆の心を引きつけず，大衆に親しまれず，大衆に喜ばれず，大衆の意識に刻まれず，安定せず，三昧に到らないような［言葉］や，同様の類いの言葉を語り，麁悪語を離れない。

1-1-4-4. 雑穢語者（Ⓓ173b6 Ⓟ210a4 Ⓝ192a6）

雑穢語（綺語）の者(saṃbhinnapralāpin)。彼は時ならず語り，ありのままでないことを語り，真実でないことを語り，無益なことを語り，中傷を語り，

非法を語り，強引に語って軽率な言葉を語り，根拠がなく，理由がなく，無意味なことや，よからぬ者の［言葉を語り］，雑穢語を離れない。

1-1-4-5. 語業結語（Ⓓ173b7 Ⓟ210a6 Ⓝ192a7）

比丘たち，このように，語によって四種の故意の業をなして集積する者は，不善で苦を生じ異熟が苦となる。

1-1-5. 意の三業（Ⓓ174a1 Ⓟ210a7 Ⓝ192b1）

比丘たち，意によって三種の故意の業をなして集積する者が不善で苦を生じ異熟が苦となるのは，どのような者か。

1-1-5-1. 貪欲者（Ⓓ174a2 Ⓟ210a8 Ⓝ192b2）

貪欲の者 (abhidhyālu)。［彼は］他人の所有物や他人の財産や他人の必需品を見て，貪欲を起こして「ああ，これらが自分にもあればなあ」と考えて，貪欲を離れない。

1-1-5-2. 瞋恚者（Ⓓ174a2 Ⓟ210b1 Ⓝ192b3）

［瞋恚の者 (vyāpannacitta)。彼は］瞋恚によって憎しみを起こし(11)「ああ，この有情たちは打たれてしまえ，殺されてしまえ，傷つけられてしまえ，不当に苦しんでしまえ」と考えて，瞋恚を離れない。

1-1-5-3. 邪見者（Ⓓ174a3 Ⓟ210b3 Ⓝ192b3）

邪見の者 (mithyādṛṣṭika)。［彼は］誤った見方をして，そのような見方でこう語る。「布施はない。祭儀はない。献供はない。妙行はない。悪行はない。妙行と悪行の業果の異熟はない。この世はない。あの世はない。父はない。母はない。有情が生まれることはない。世間において，正しく到り発意した阿羅漢が，今時のこの世とあの世を自ら神通によって現証し，達成し覚知して，『わが生涯は尽きた。梵行は実践された。なすべきことはなされた。これより他の生は知らない。』と思うことはない。」と(12)。［彼は］邪見を離れない。

1-1-5-4. 意業結語（Ⓓ174a6 Ⓟ210b7 Ⓝ192b7）

比丘たち，このように，意によって故意に三種の業をなして集積する者は不善で苦を生じ異熟が苦となる。

1-1-6. 四無量心

1-1-6-1. (Ⓓ174a7 Ⓟ210b8 Ⓝ192b7)

比丘たち，その場合，多聞の聖者である声聞は，不善の身業を離れて善の身業を修習する。不善の語業を離れて善の語業を修習する。不善の意業を離れて善の意業を修習する。彼は，慈をともなう心が怨みなく仇も害意もなく(13)，広大で崇高で量りなく，一方に信解して，遍満し完遂している。第二方もまた同様である。第三［方］もまた同様である。第四［方］もまた同様である。上［方］と下［方］と横方向すべても同様にして，すべてのこの世間に慈をともなう心によって信解し遍満し完遂している。彼はこのように考える。「私はこの心を以前は僅かに起こしても修習しなかった。今私はこの心を量りなく広大に修習している。」と。

1-1-6-2. (Ⓓ174b3 Ⓟ211a6 Ⓝ193a4)

比丘たち，聖者である声聞の心は，量りなく広大によく修習されている。それ以前に量っていたものを彼はもはや指針とすることはないだろう。彼はそこにとどまることもないだろう。彼はそれを数え上げることもないだろう。

1-1-6-3. (Ⓓ174b4 Ⓟ211a7 Ⓝ193a5)

比丘たち，もし少年あるいは少女の幼愚な者であっても，初めから慈心三昧を修習したならば，身あるいは語あるいは意によって悪しき業をなすであろうか。

──大徳，そうではありません。

1-1-6-4. (Ⓓ174b5 Ⓟ211b1 Ⓝ193a6)

──比丘たち，よろしい，よろしい。慈心三昧は，男であれ女であれ，在家であれ出家であれ，修習すべきである。それはなぜかといえば，男であれ女であれ，在家であれ出家であれ，この身体を持ち運んで［来世に］赴くことはないからである。比丘たち，人は［身体でなく］心を原因として生じる。心を依り所として，心に従い，心に依って力を発揮するのである。

1-1-6-5. (Ⓓ174b7 Ⓟ211b3 Ⓝ193b1)

この身によってかつて悪しき不善の業をなして集積した者は，不善で苦を生じ異熟が苦となるが，彼らはすべてこの世で［異熟を］受用することになる。

今世だけで受用し，次生と次次［世］では［受用］しない。
比丘たち，そのように慈［心］三昧を修習した者は，たとえ上［界］を証得していなくとも不還［果］にとどまるであろう。(14)

1-1-6-6.（Ⓓ175a1 Ⓟ211b6 Ⓝ193b3）

比丘たち，さらにまた，多聞の聖者である声聞は，不善の身業を離れて云々…以下続いて，悲をともなう［心］と喜をともなう［心］と捨をともなう［心］も同様に説明される。

そのようにお説きになられた。

付論：『故思経』（*Saṃcetanīyasūtra*）諸本対照テキスト

上に試訳した本論所引の経典は，諸訳にいくつかの対応経文が存在する。上述のように，本論構成のモチーフともなる重要な経典でもあるので，これら諸本のテキストを各節ごとに対照してみた。

本経の題名は『業施設』には明示されないが，『倶舎論』業品に *Saṃcetanīyasūtra*（玄奘は「故思経」，眞諦は「故心作経」と訳す）の名で言及される経(15)がその相当経と判ぜられ，Śamathadeva はその注釈(AKU)において本経の全文を引く。現存経典資料では『中阿含經』と AN の中に対応経が確認され，それぞれ『思経』，*Sañcetanikasutta* と呼ばれている。これらの諸本はよく対応し，古くから基本教説として重用されていたことが伺える。また『法蘊足論』や『婆沙論』，SA などにも言及され，部分的に引用が見られるので，それらも随時抽出して対照した。(16)

以下のテキストは原文を適宜校訂しているが，校訂箇所をいちいち注記していない。また，当初は一見して対応が分かる対照表のようなものを種々検討したが，結局ただ列挙しただけの見づらいテキストになってしまった。ご容赦を。

【テキスト略号】

［KP］ *Karmaprajñapti*

［AKU］ *Abhidharmakośaṭīkopāyikā nāma*（Ⓓ ju236b1-238b5; Ⓟ tu270a3-272b5）.(17)

［中］ 瞿曇僧伽提婆訳『中阿含經』(15) 業相應品「思經」第五（Ⓣ26.vol.1: 437b24-438b12）

[AN]　*Aṅguttara-Nikāya*　X. 21. 207-208　(vol. V: 297-301). cf. 206 (vol. V: 292-294)[18].

[DS]　*Dharmaskandha* (Dietz [1984]; Matsuda [1986])

[法]　玄奘訳『阿毘達磨法蘊足論』學處品・無量品（Ⓣ1537. vol. 26)[19]

[婆]　玄奘訳『阿毘達磨大毘婆沙論』(Ⓣ1545. vol. 27)[20]

[SA]　*Sphuṭārthā Abhidharmakośavyākhyā of Yaśomitra* (ed. by U. Wogihara)[20].

1-1-1. 序分

[KP: Ⓓ 172b5; Ⓟ 208b4; Ⓝ 191a4] འདི་སྐད་བདག་གིས་ཐོས་པ་དུས་གཅིག་ན། བཅོམ་ལྡན་འདས་མཉན་དུ་ཡོད་པ་ན། རྒྱལ་བུ་རྒྱལ་བྱེད་ཀྱི་ཚལ་མགོན་མེད་ཟས་སྦྱིན་གྱི་ཀུན་དགའ་ར་བ་ན་བཞུགས་སོ།། དེ་ནས་བཅོམ་ལྡན་འདས་ཀྱིས་དགེ་སློང་རྣམས་ལ་བཀའ་སྩལ་པ།

[AKU: Ⓓ 236b1; Ⓟ 270a3] བསགས་པའི་ལས་མདོ་ལས་ཞེས་བྱ་བ་ལ། གླེང་གཞི་ནི་མཉན་དུ་ཡོད་པ་ནའོ། དེ་ནས་བཅོམ་ལྡན་འདས་ཀྱིས་དགེ་སློང་རྣམས་ལ་བོས་ཏེ།

[中：437b25] 我聞如是。一時佛遊舍衛國在勝林給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。

[AN: -]

1-1-2. 三種の故意業

[KP: Ⓓ 172b6; Ⓟ 208b6; Ⓝ 191a4] དགེ་སློང་དག་ང་ནི་ཆེད་དུ་བྱས་ཤིང་བསགས་པའི་རྣམ་པར་སྨིན་པ་ཉམས་སུ་མྱོང་བར་སྟོན་ཏེ། དེ་ཡང་ཚེ་འདི་དང་། སྐྱེས་པའི་འོག་དང་། ལན་གྲངས་གཞན་ལ་མྱོང་བར་འགྱུར་བའོ།། དགེ་སློང་དག་དེ་ལ་ལུས་ཀྱིས་ཆེད་དུ་བྱས་ཤིང་བསགས་པ། མི་དགེ་བསྡུག་བསྔལ་སྐྱེད་པ། རྣམ་པར་སྨིན་པ་སྡུག་བསྔལ་བ་ནི་རྣམ་པ་གསུམ་མོ།། ངག་གི་ནི་རྣམ་པ་བཞིའོ།། ཡིད་ཀྱི་ནི་རྣམ་པ་གསུམ་མོ།།

[AKU: Ⓓ 236b2; Ⓟ 270a4] དགེ་སློང་དག་ལས་བྱས་ཤིང་བསགས་ལ་ཉེ་བར་བསགས་པ་དག་གི་རྣམ་པར་སྨིན་པ་ནི་སོ་སོར་མྱོང་བར་འགྱུར་རོ་ཞེས་སྨྲའོ།། དེ་ཡང་མཐོང་བའི་ཆོས་ཉིད་ལ་དང་སྐྱེས་ནས་དང་། ལན་གྲངས་གཞན་ན་མྱོང་བར་འགྱུར་བའོ།། དགེ་སློང་དག་ལས་མ་བྱས་ལ་མ་བསགས་ཤིང་ཉེ་བར་མ་བསགས་པའི་ལས་ཀྱི་རྣམ་པར་སྨིན་པ་ནི་སོ་སོར་མྱོང་བར་མི་འགྱུར་རོ་ཞེས་ང་སྨྲའོ།། དགེ་སློང་དག་དེ་ལ་ལུས་ཀྱི་སྡིག་པ་མི་དགེ་བའི་ལས་རྣམ་པ་གསུམ་དང་། ངག་གི་བཞི་དང་ཡིད་ཀྱི་གསུམ་བྱས་ཤིང་བསགས་ལ་ཉེ་བར་བསགས་པས་རྣམ་པར་སྨིན་པ་སྡུག་བསྔལ་ཞིང་མི་དགེ་བ་འབྱིན་པར་འགྱུར་ཏེ།

[中：437b26]「若有故作業，我說彼必受其報，或現世受，或後世受。若不故作業，我說此不必受報。於中，身故作三業，不善與苦果受於苦報。口有四業，意有三業，不善與苦果受於苦報。

[AN: 297.15] Nāhaṃ bhikkhave sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃviditvā vyantibhāvaṃ vadāmi, tañ ca kho diṭṭh'

eva dhamme upapajjaṃ vā apare vā pariyāye. Na tvevāhaṃ bhikkhave sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃviditvā dukkhass' antakiriyaṃ vadāmi. Tatra bhikkhave tividhā kāyakammantasandosavyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti, catubbidhā vacīkammantasandosavyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti, tividhā manokammantasandosavyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti.

cf. [**婆：587a11-15**] 如契經說。故思所造身三種業，已作已集，是惡不善，能生衆苦，感苦異熟。故思所造語四種業，意三種業，已作已集是惡不善，能生衆苦，感苦異熟。意三業者謂貪恚邪見。

cf. [**SA: 400.9**] *Saṃcetanīya-sūtre vacanād* iti / saṃcetanīyaṃ karma kṛtvopacitya narakeṣūpapadyate / kathaṃ ca bhikṣavaḥ saṃcetanīyaṃ karma kṛtaṃ bhavaty upacitaṃ / iha bhikṣava ekatyaḥ saṃciṃtya trividhaṃ karma kāyena karma karoty upacinoti caturvidhaṃ vācā trividhaṃ manaseti vistareṇoktv' āha /

1-1-3. 身の三業

[KP: Ⓓ 172b7; Ⓟ 208b8; Ⓝ 191a7] དགེ་སློང་དག་ལུས་ཀྱིས་ཆེད་དུ་བྱས་པའི་ལས་བྱས་ཤིང་བསགས་པ། མི་དགེ་བ་སྡུག་བསྔལ་བསྐྱེད་པ། རྣམ་པར་སྨིན་པ་སྡུག་བསྔལ་བ་རྣམ་པ་གསུམ་ཇི་ལྟ་བུ་ཡིན་ཞེ་ན།

[AKU: Ⓓ 236b4; Ⓟ 270a7] དགེ་སློང་དག་ཇི་ལྟར་ན་ལུས་ཀྱི་སྡིག་པ་མི་དགེ་བའི་ལས་རྣམ་པ་གསུམ་བྱས་ཤིང་བསགས་ལ་ཉེ་བར་བསགས་པས་རྣམ་པར་སྨིན་པ་སྡུག་བསྔལ་ཞིང་མི་དགེ་བ་འབྱིན་པར་འགྱུར་བ་གང་ཞེ་ན།

[**中：437c1**] 云何身故作三業，不善與苦果受於苦報。

[**AN: 297.25**] Kathañ ca bhikkhave tividhā kāyakammantasandosavyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti?

1-1-3-1. 断生命者

[KP: Ⓓ 173a1; Ⓟ 209a1; Ⓝ 191a7] སྲོག་གཅོད་པ་ནི་དྲག་ཅིང་ལག་དམར་བ་བསད་པ་དང་། རབ་ཏུ་བསད་པ་ལ་ཞེན་པ་ངོ་ཚ་མེད་པ། སེམས་ཅན་སྲོག་ཆགས་སུ་གྱུར་པ་ཐམས་ཅད་ལ་ཐ་ན་སྲོག་ཆགས་གྲོག་སྦུར་ཡན་ཆད་ལ་སྙིང་རྗེ་མེད་པ་ཡིན་ཏེ། དེ་ནི་སྲོག་གཅོད་པ་མ་སྤངས་པ་ཡིན་ནོ།།

[AKU: Ⓓ 236b5; Ⓟ 270a8] ཁ་ཅིག་སྲོག་གཅོད་ཅིང་ལག་པ་ཁྲག་དང་བཅས་པ། བཙོམ་ཞིང་རབ་ཏུ་སྡོང་ལ་ངོ་ཚ་བ་མེད་ཅིང་སྙིང་རྗེ་མེད་པ་གྲོག་སྦུར་ཡན་ཆད་ཀྱི་སྲོག་ཆགས་འབྱུང་པོ་ཐམས་ཅད་ཀྱི་སྲོག་ཉེ་བར་བཅུང་སྟེ། སྲོག་གཅོད་པ་ལས་མ་ལོག་པར་གྱུར་བ་དག་གོ།

[**中：437c2**] 一曰殺生。極惡飲血，其欲傷害，不慈有情，乃至蜫蟲。

[AN: 297.27 (292.15)] Idha bhikkhave ekacco pāṇātipātī hoti luddo lohitapāṇī hatapahate niviṭṭho adayāpanno sabbapāṇabhūtesu.

[DS. Dietz: 80] evaṃ hy uktaṃ bhagavatā / prāṇātipātī khalv ihaiko bhavati raudro ruddhirapāṇiḥ hataprahataniviṣṭaḥ alajjī adayāvān sarvasattvaprāṇibhūteṣv antataḥ kuntapipīlakam api prāṇātipātād aprativirato bhavati / ayam ucyate prāṇātipātikaḥ /

[法：455a29] 如世尊說。有殺生者。暴惡血手，耽著殺害，於諸有情有情勝類，無羞・無愍，下至捃多比畢洛迦，皆不離殺。如是名爲能殺生者。

1-1-3-2. 不与取者

[KP: Ⓓ 173a2; Ⓟ 209a3; Ⓝ 191b1] མ་བྱིན་པར་ལེན་པ་ནི་དེས་གྲོང་ངམ། དགོན་པ་ནས་མ་བྱིན་པར་རྐུན་ཐབས་སུ་བླངས་པ་ཡིན་ཏེ། མ་བྱིན་པར་ལེན་པ་མ་སྤངས་པ་ཡིན་ནོ།།

[AKU: Ⓓ 236b6; Ⓟ 270b1] ཁ་ཅིག་མ་བྱིན་པར་ལེན་ཏེ་གྲོང་ངམ་དགོན་པར་སོང་ནས་གཞན་གྱིས་མ་བྱིན་པ་རྐུ་བའི་གྲངས་སུ་གཏོགས་པ་སྟེ། མ་བྱིན་པར་ལེན་པ་ལས་མ་ལོག་པར་གྱུར་བ་དག་གོ།

[中：437c3] 二曰不與取。著他財物以偸意取。

[AN: 297.27 (292.17)] Adinnādāyī hoti, yan taṃ parassa paravittūpakaraṇaṃ gāmagataṃ vā araññagataṃ vā, taṃ adinnaṃ theyyasaṃkhātaṃ ādātā hoti.

[DS. Dietz: 83] evaṃ hy uktaṃ bhagavatā / adattādāyī khalv ihaiko bhavati / sa grāmagatam araṇyagataṃ vā pareṣām adattaṃ steyasaṃkhyātam ādatte / idam ucyate adattādānaṃ //

[法：456a3] 如世尊說。有不與取者。或城邑中・或阿練若，不與物數劫盜心取，不離劫盜。如是名爲不與取者。

1-1-3-3. 欲邪行者

[KP: Ⓓ 173a2; Ⓟ 209a3; Ⓝ 191b2] འདོད་པ་ལ་ལོག་པར་གཡེམ་པ་ནི་གཞན་གྱི་བུད་མེད། གཞན་གྱི་ཆུང་མ་གཞན་གྱིས་ཡོངས་སུ་བཟུང་བ་འདི་ལྟ་སྟེ། མས་བསྲུངས་པ་འམ། ཕས་བསྲུངས་པ་འམ། མིང་པོས་བསྲུངས་པ་འམ། ཕུ་ནུ་མོས་བསྲུངས་པ་འམ། སྤྲུག་མོས་བསྲུངས་པའམ། གྲོས་པོས་བསྲུངས་པ་འམ། རིགས་གཅིག་པས་བསྲུངས་པ་འམ། གཉེན་གྱིས་བསྲུངས་པའམ། རུས་གཅིག་པས་བསྲུངས་པའམ། ཆད་པ་ཡོད་པའམ། བགེགས་ཡོད་པ་གང་ཡིན་པ་དེ་དག་དང་། ཐ་ན་མེ་ཏོག་གི་ཕྲེང་བ་བཏགས་པ་ཡང་རུང་སྟེ། དེ་ལྟ་བུའི་འདོད་པའི་ཉེ་བའི་ཉོན་མོངས་པ་རྣམས་ཀྱིས་སྤྱོད་པ་ལ་འཇུག་པ་ཡིན་ཏེ། དེ་ནི་འདོད་པ་ལ་ལོག་པར་གཡེམ་པ་མ་སྤངས་པ་ཡིན་ནོ།།

[AKU: Ⓓ 236b6; Ⓟ 270b2] ཁ་ཅིག་འདོད་པས་ལོག་པར་གཡེམ་པ་མས་བསྲུངས་པ་འམ། ཕས་བསྲུངས་པ་འམ། མིང་པོས་བསྲུངས་པ་འམ། སྲིང་མོས་བསྲུངས་པ་འམ། གྱོས་པོས་བསྲུངས་པ་འམ། སྒྱུག་མོས་བསྲུངས་པ་འམ། གཉེན་གྱིས་བསྲུངས་པ་འམ། རིགས་ཀྱིས་བསྲུངས་པ་འམ། རུས་ཀྱིས་བསྲུངས་པ་འམ། ཆད་པ་དང་བཅས་པ་དང་སྒྲིབ་པ་དང་བཅས་པའི་གཞན་གྱི་བུད་མེད་གཞན་གྱིས་ཡོངས་སུ་བཟུང་བ་ལ་ཕྲེང་བ་འཕངས་ཏེ། དེ་དང་ལྷན་ཅིག་སྟོབས་ཀྱིས་མནན་ཏེ་འདོད་པ་སྤྱོད་པར་བྱེད་ཅིང་འདོད་པས་ལོག་པར་གཡེམ་པ་ལས་མ་ལོག་པར་གྱུར་པ་དག་གོ།

[中：437c4] 三曰邪婬。彼或有父所護・或母所護・或父母所護・或姐妹所護・或兄弟所護・或婦父母所護・或親親所護・或同姓所護・或爲他婦女・有鞭罰恐怖・及有名假賃至華鬘，親犯如此女。是謂身故作三業，不善與苦果受於苦報。

[AN: 297.27 (292.19)] Kāmesu micchācārī hoti, yā tā māturakkhitā piturakkhitā (mātāpiturakkhitā) bhāturakkhitā bhaginirakkhitā ñātirakkhitā (gottarakkhitā) dhammarakkhitā sassāmikā saparidaṇḍā antamaso mālāguṇaparikkhittā pi, tathārūpāsu cārittaṃ āpajjitā hoti.

[DS. Matsuda: 14] evaṃ hy uktaṃ bhagavatā / kāmamithyācārī khalv ihaiko bhavati / sa yās tā bhavaṃti parastriyaḥ parabhāryās tadyathā mātṛrakṣitā vā pitṛrakṣi[tā vā bhrātṛrakṣitā vā bhaginīrakṣitā vā] śva{ḥ}śrūrakṣitā vā ś(v)aśurarakṣitā vā jñātirakṣitā vā jātirakṣitā vā gotrarakṣitā vā sadaṇḍāḥ sāvaraṇāḥ sadaṇḍāvaraṇā antato mālāguṇaparikṣiptā api tadrūpāsu sahasā balenānupraskandya kāmeṣu cāritram āpadyaty ayam ucya[te kāmamithyācārī //]

[法：456b3] 如世尊說。有欲邪行者。於他女婦他所攝受，謂彼父・母・兄弟・姊妹・舅姑・親眷・宗族守護・有罰有障・有障罰俱・下至授擲花鬘等信，於是等類起欲煩惱，招誘强抑共爲邪行，不離邪行。如是名爲欲邪行者。

1-1-3-4. 身業結語

[KP: Ⓓ 173a5; Ⓟ 209a8; Ⓝ 191b4] དགེ་སློང་དག་དེ་ལྟར་ན་ཆེད་དུ་བྱས་པའི་ལས་རྣམ་པ་གསུམ་བྱས་ཤིང་བསགས་པ་མི་དགེ་བ་སྡུག་བསྔལ་བསྐྱེད་པ། རྣམ་པར་སྨིན་པ་སྡུག་བསྔལ་བ་ཡིན་ནོ།།

[AKU: Ⓓ 237a1; Ⓟ 270b4] དགེ་སློང་དག་ལུས་ཀྱི་སྡིག་པ་མི་དགེ་བ་རྣམ་པ་གསུམ་པོ་འདི་དག་བྱས་ཤིང་བསགས་པས་རྣམ་པར་སྨིན་པ་སྡུག་བསྔལ་ཞིང་མི་དགེ་བ་འབྱིན་པར་འགྱུར་རོ།།

[中：437c8] 是謂身故作三業，不善與苦果受於苦報。

[AN: 297.28] Evaṃ kho bhikkhave tividhā kāyakammantasandosavyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti.

1-1-4. 語の四業

[KP: Ⓓ 173a5; Ⓟ 209a8; Ⓝ 191b5] དགེ་སློང་དག་ངག་གིས་ཆེད་དུ་བྱས་པའི་ལས་རྣམ་པ་བཞི་བྱས་ཤིང་བསགས་པ། མི་དགེ་བ་སྡུག་བསྔལ་བསྐྱེད་པ། རྣམ་པར་སྨིན་པ་སྡུག་བསྔལ་བ་ཇི་ལྟ་བུ་ཞེ་ན།

[AKU: Ⓓ 237a2; Ⓟ 270b5] དགེ་སློང་དག་ཇི་ལྟར་ན་ངག་གི་ཐིག་པ་མི་དགེ་བའི་ལས་རྣམ་པ་བཞི་བྱས་ཤིང་བསགས་པ་ཉེ་བར་བསགས་པས་རྣམ་པར་སྨིན་པ་མི་དགེ་ཞིང་སྡུག་བསྔལ་བ་འབྱིན་པར་འགྱུར་བ་དེ་གང་ཞེ་ན།

[中：437c09] 云何口故作四業，不善與苦果受於苦報。

[AN: 297.30] Kathañ ca bhikkhave catubbidhā vacīkammantasandosa-vyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hotı?

1-1-4-1. 虚誑語者

[KP: Ⓓ 173a6; Ⓟ 209b1; Ⓝ 191b6] བརྫུན་དུ་སྨྲ་བ་ནི་དེ་ཚོགས་པའི་ནང་ན་འདུག་ཀྱང་རུང་། འཁོར་གྱི་ནང་ན་འདུག་ཀྱང་རུང་། རྒྱལ་པོའི་ཕོ་བྲང་གི་ནང་ན་འདུག་ཀྱང་རུང་། གཉེན་གྱི་ཁྱིམ་གྱི་ནང་ན་འདུག་ཀྱང་རུང་། ཆེ་བཞིར་དྲིས་ཏེ། ཀྱེ་མི་ཁྱོད་གང་ཤེས་པ་དེ་ནི་སྨྲོས་ཤིག །གང་མི་ཤེས་པ་དེ་ནི་མ་སྨྲ་ཤིག །གང་མཐོང་བ་དེ་ནི་སྨྲོས་ཤིག །གང་མ་མཐོང་བ་དེ་ནི་མ་སྨྲ་ཞིག་ཅེས་བྱས་ན། དེ་མི་ཤེས་བཞིན་དུ་ནི་ཤེས་སོ་ཞེས་ཟེར། ཤེས་བཞིན་དུ་ནི་མི་ཤེས་སོ་ཞེས་ཟེར། མ་མཐོང་བཞིན་དུ་ནི་མཐོང་ངོ་ཞེས་ཟེར། མཐོང་བཞིན་ད་ནི་མ་མཐོང་ངོ་ཞེས་ཟེར་ཏེ། དེ་དག་གི་ཕྱིར་རམ། གཞན་གྱི་ཕྱིར་རམ། ཟང་ཟིང་ཆུང་ཟད་ཙམ་གྱི་ཕྱིར། ཤེས་བཞིན་དུ་བརྫུན་དུ་སྨྲ་བ་མ་སྤངས་པ་ཡིན་ནོ།།

[AKU: Ⓓ 237a2; Ⓟ 270b6] ཁ་ཅིག་བརྫུན་དུ་སྨྲ་སྟེ་དེ་རྒྱལ་པོའི་ཕོ་བྲང་དུ་འགྲོ་འམ། བློན་པོའི་ཁང་པར་འགྲོ་འམ། ཚོགས་ཀྱི་ནང་དུ་འགྲོ་འམ། འཁོར་གྱི་ནང་དུ་འགྲོ་བ་ན་དཔང་པོས་འདྲི་སྟེ། ཀྱེ་སྐྱེས་བུ་ཤེས་པ་དེ་སྨྲོས་ཤིག། མི་ཤེས་པ་དེ་མ་སྨྲ་ཤིག། དེ་མཐོང་བ་དེ་སྨྲོས་ཤིག། མ་མཐོང་བ་དེ་མ་སྨྲ་ཤིག། དེས་དཔང་པོ་དྲིས་པ་ན་དེ་མི་ཤེས་བཞིན་དུ་བདག་གིས་ཤེས་སོ་ཞེས་སྨྲ། མ་མཐོང་བཞིན་དུ་བདག་གིས་མཐོང་ངོ་ཞེས་བདག་གི་ཕྱིར་དང་གཞན་གྱི་ཕྱིར་དང་ཟང་ཟིང་ཙུང་ཟད་ཙམ་གྱི་ཕྱིར་ཤེས་བཞིན་དུ་བརྫུན་དུ་སྨྲ་སྟེ། བརྫུན་དུ་སྨྲ་བ་ལས་མ་ལོག་པར་གྱུར་བའོ།།

[中：437c10] 一曰妄言。彼或在衆・或在眷屬・或在王家，若呼彼問「汝知便說」。彼不知言知・知言不知・不見言見・見言不見，爲已・爲他・或爲財物，知已妄言。

[AN: 297.32 (293.1)] Idha bhikkhave ekacco musāvādī hoti sabhāgato vā parisagato vā ñātimajjhagato vā pūgamajjhagato vā rājakulamajjhagato vā abhinīto sakkhipuṭṭho ‘eh’ ambho purisa, yaṃ jānāsi, taṃ vadehī’ ti, so ajānaṃ vā ‘ahaṃ jānāmī’ ti jānaṃ vā ‘ahaṃ na jānāmī’ ti apassaṃ vā ‘ahaṃ passāmī’ ti passaṃ vā ‘ahaṃ na passāmī’ ti iti attahetu vā parahetu vā āmisakiñcikkhahetu vā sampajānamusā bhāsitā hoti.

[DS. Matsuda: 18] evaṃ hy uktaṃ bhagava[tā / mṛṣāvādī khalv ihaiko bhavati /] sa sabhāgato vā parṣanmadhyagato vā rājakulamadhyagato vā yuktakulamadhyagato vā jñātikulamadhyagato vā sākṣīpṛṣṭaḥ san

haṃ bhoḥ puruṣa yaj jānīṣe tad vada yan na jānīṣe tan mā vo[co yat paśyase tad vada yan na paśyase] tan mā vocaḥ / so 'jānaka eva saṃjānāmīty āha / apaśyaka eva saṃpaśyāmīty āha / jānann eva san na jānāmīty āha / paśyann eva san na paśyāmīty āha / ity ātmaheto paraheto āmiṣakiṃci[tkaheto vā ------ mṛṣāvā]dād aprativirato bhavatīti /

[法：457a22-29] 如世尊説。有虚誑語者。或對平正・或對大衆・或對王家・或對執理・或對親族，同檢問言「咄哉男子，汝知當説不知勿説，汝見當説不見勿説。」彼得問已，不知言知・知言不知・見言不見・不見言見，彼或爲己・或復爲他・或爲名利，故以正知説虚誑語，不離虚誑。如是名爲虚誑語者。

1-1-4-2. 離間語者

[KP: Ⓓ 173b1; Ⓟ 209b5; Ⓝ 192a1] ཕྲ་མ་ཟེར་བ་ནི་ཚུ་རོལ་པ་རྣམས་ཀྱི་ཐོས་ནས། དེ་དག་དབྱེ་བའི་ཕྱིར་ཕ་རོལ་པ་རྣམས་ཀྱི་ཐད་དུ་སོང་སྟེ་བསྙད་ལ། དེ་དག་གིས་ཐོས་ན་ཡང་ཚུ་རོལ་པ་རྣམས་དབྱེ་བའི་ཕྱིར། ཚུ་རོལ་པ་རྣམས་ཀྱི་ཐད་དུ་སོང་སྟེ། བསྙད་པར་བྱེད་དེ། དེ་ལྟར་འདུམ་པ་རྣམས་དབྱེ་བ་དང་། དབྱེ་བ་རྣམས་ལ་རྗེས་སུ་ཕྱོགས་ལ། མི་མཐུན་པར་འདོད་ཅིང་མི་མཐུན་པར་དགའ་སྟེ་མི་མཐུན་པར་འགྱུར་བའི་ཚིག་སྨྲ་བ་ནི་ཕྲ་མ་མ་སྤངས་པ་ཡིན་ནོ།།

[AKU: Ⓓ 237a4; Ⓟ 270b8] ཁ་ཅིག་ཕྲ་མ་ཅན་དུ་གྱུར་ཏེ། རབ་ཏུ་འབྱེད་པ། དེ་ལས་ཐོས་ནས་འདི་དག་ལ་སྨྲ། འདི་དག་ལས་ཐོས་ནས་དབྱེ་བར་གྱུར་ཅིག་ཅེས་འདི་ལ་སྨྲས་ཏེ་ཚོགས་འབྱེད་པར་གྱུར་ཏེ། དད་པ་དང་མི་མཐུན་ཞིང་མ་དུལ་ལ་རྗེས་སུ་མི་མཐུན་པ་བས་ཚིག་སྨྲ་ཞིང་ཕྲ་མ་ལས་མ་ལོག་པར་གྱུར་པའོ།།

[中：437c14] 二曰兩舌。欲離別他，聞此語彼，欲破壞此，聞彼語此，欲破壞彼・合者欲離・離者復離，而作群黨・樂於群黨・稱説群黨。

[AN: 297.32 (293.8)] Pisunāvāco hoti ito sutvā amutra akkhātā imesaṃ bhedāya, amutra vā sutvā imesaṃ akkhātā amūsaṃ bhedāya, iti samaggānaṃ vā bhettā bhinnānaṃ vā anuppadātā vaggārāmo vaggarato vagganandī vaggakaraṇiṃ vācaṃ bhāsitā hoti.

1-1-4-3. 麁悪語者

[KP: Ⓓ 173b3; Ⓟ 209b7; Ⓝ 192a3] ཚིག་རྩུབ་པོར་སྨྲ་བ་ནི་དེས་ཚིག་འཇམ་ཞིང་རྣར་སྙན་ལ། ཡིད་དུ་འོང་བ་དང་། སྙན་པ་དང་། འདོད་པར་བྱ་བ་དང་། ཕོ་བྲང་འཁོར་གྱི་སྐད་དང་། སྙན་ཅིང་འཇེབས་པ་དང་། ཟུར་ཕྱིན་པ་དང་། བརྡ་ཕྲད་པ་དང་། རྣར་འོང་བ་དང་། སྐྱེ་བོ་མང་པོའི་སྙིང་དུ་སྡུག་པ་དང་། སྐྱེ་བོ་མང་པོས་གཅེས་པར་བྱ་བ་དང་། སྐྱེ་བོ་མང་པོ་དགའ་བ་དང་། སྐྱེ་བོ་མང་པོའི་ཡིད་དུ་འོང་བ་དང་། མཉམ་པར་གཞག་པ་དང་། ཏིང་ངེ་འཛིན་དུ་འགྱུར་བ་གང་ཡིན་པ་དེ་དག་དང་། དེ་ལྟ་བུའི་ཚིག་བོར་ཏེ། ཚིག་ཀུན་དུ་ཟུག་པ་དང་། རྩུབ་པ་དང་། གཞན་གྱིས་མི་བཟོད་པ་དང་། གཞན་གྱི་ཞེར་འདེབས་པ་དང་། སྐྱེ་བོ་མང་པོའི་སྙིང་དུ་མི་སྡུག་པ་དང་། སྐྱེ་བོ་མང་པོས་གཅེས་པར་མི་བྱ་བ་དང་། སྐྱེ་བོ་མང་པོ་མི་དགའ་བ་དང་། སྐྱེ་བོ་མང་པོའི་ཡིད་དུ་མི་འོང་བ་དང་། མཉམ་པར་གཞག་པ་མ་ཡིན་པ་དང་། ཏིང་ངེ་འཛིན་དུ་གྱུར་པ་མ་ཡིན་པ་གང་ཡིན་པ་རྣམས་ཏེ། དེ་

ལྟ་བུའི་ཚིག་རྣམས་སྨྲ་བ་ནི། ཚིག་རྩུབ་པོ་མ་སྤངས་པ་ཡིན་ནོ།།

[AKU: Ⓓ 237a5; Ⓟ 271a2] ཁ་ཅིག་ཚིག་རྩུབ་མོ་སྨྲ་བ་ཅན་དུ་གྱུར་ཏེ། ཚིག་གང་སྙན་པ་དང་། བདེ་བདང་སྙིང་དུ་འོང་བ་དགའ་བ་ཕ་རོལ་མགུ་བ། གསལ་བ། རྣམ་པར་ཤེས་པར་བྱ་བ། མཉན་པར་བྱ་བ་རྗེས་སུ་མཐུན་པ། སྐྱེ་བོ་མང་པོ་དགའ་བ། སྐྱེ་བོ་མང་པོ་ལ་སྡུག་པ། སྐྱེ་བོ་མང་པོ་རབ་ཏུ་དགའ་བར་བྱེད་པ། སྐྱེ་བོ་མང་པོ་ཡིད་དུ་འོང་བ། མཉམ་པར་བཞག་པ། ཏིང་ངེ་འཛིན་སྒྲུབ་པར་བྱེད་པ་དེ་ལྟ་བུའི་ཚིག་སྤངས་ཏེ། ཚིག་གང་བརླང་ཞིང་རྩུབ་པ། ཕ་རོལ་གྱི་གནད་གཅོད་པ། ཕ་རོལ་གྱི་རྗེས་སུ་མི་མཐུན་པ། སྐྱེ་བོ་མང་པོ་མི་འདོད་པ། སྐྱེ་བོ་མང་པོ་ལ་མི་སྡུག་པ། སྐྱེ་བོ་མང་པོ་མི་དགའ་ཞིང་།། སྐྱེ་བོ་མང་པོ་ཡིད་དུ་མི་འོང་བ། མཉམ་པར་མ་བཞག་བ། ཏིང་ངེ་འཛིན་མ་ཡིན་པ་སྒྲུབ་པར་བྱེད་པ་དེ་ལྟ་བུའི་ཚིག་སྨྲ་ཞིང་ཚིག་རྩུབ་མོ་ལས་མ་ལོག་པར་གྱུར་བའོ།།

[中：437c17] 三曰麤言。彼若有言，辭氣麤獷・惡聲・逆耳・衆所不喜・衆所不愛・使他苦惱・令不得定，説如是言。

[AN: 297.32 (293.12)] Pharusāvāco hoti, yā sā vācā aṇḍakā kakkasā parakaṭukā parābhisajjanī kodhasāmantā asamādhisaṃvattanikā, tathārūpiṃ vācaṃ bhāsitā hoti.

1-1-4-4. 雜穢語者

[KP: Ⓓ 173b6; Ⓟ 210a4; Ⓝ 192a6] ཚིག་ཀྱལ་པ་ནི་དེ་དུས་མ་ཡིན་པར་སྨྲ་བ་དང་། ཡང་དག་པ་མ་ཡིན་པར་སྨྲ་བ་དང་། མི་བདེན་པར་སྨྲ་བ་དང་། ཕན་པ་མ་ཡིན་པར་སྨྲ་བ་དང་། སྐྱུར་པ་སྨྲ་བ་དང་། ཆོས་མ་ཡིན་པ་སྨྲ་བ་དང་། ཀྱུ་ཅོམ་དུ་སྨྲ་ཞིང་བབ་ཆོལ་གྱི་ཚིག་སྨྲ་བ་དང་། གཏན་ཚིགས་མེད་པ་དང་། སྙད་མེད་པ་དང་། དོན་དང་མི་ལྡན་པ་དང་། འཆལ་བ་རྣམས་ཀྱི་ཚིག་ཀྱལ་བ་མ་སྤངས་པ་ཡིན་ནོ།།

[AKU: Ⓓ 237b1; Ⓟ 271a5] ཁ་ཅིག་ཚིག་འཁྱལ་པ་ཅན་དུ་གྱུར་ཏེ། དེ་ཡང་ཚིག་མ་ཡིན་པར་སྨྲ་བ། མི་བདེན་པར་སྨྲ་བ། དེ་ཁོན་ཉིད་མ་ཡིན་པར་སྨྲ་བ། དོན་མ་ཡིན་པར་སྨྲ་བ། མ་ཞི་བར་སྨྲ་བ་སྟེ་འཁྲུགས་ཤིང་དུས་མ་ཡིན་པར་སྨྲ་བ། ཉེ་བར་བརྟགས་པ་མ་ཡིན་པ།། ཆོས་མ་ཡིན་པ་དང་། དོན་མ་ཡིན་པ་སྡུད་པར་བྱེད་པ། ངག་འཁྱལ་པ་ལས་མ་ལོག་པར་གྱུར་པའོ།།

[中：437c19] 四曰綺語。彼非時説・不眞實説・無義説・非法説・不止息説，又復稱歎不止息事，違背於時而不善教，亦不善訶。

[AN: 297.32 (293.15)] Samphappalāpī hoti akālavādī abhūtavādī anatthavādī adhammavādī avinayavādī, anidhānavatiṃ vācaṃ bhāsitā hoti akālena anapadesaṃ apariyantavatiṃ anatthasaṃhitaṃ.

1-1-4-5. 語業結語

[KP: Ⓓ 173b7; Ⓟ 210a6; Ⓝ 192a7] དགེ་སློང་དག་དེ་ལྟར་ན་ངག་གིས་ཆེད་དུ་བྱས་པའི་ལས་རྣམ་པ་བཞི་བྱས་ཤིང་བསྒྲུགས་པ་མི་དགེ་བ་སྡུག་བསྔལ་བསྐྱེད་པ། རྣམ་པར་སྨིན་པ་སྡུག་བསྔལ་བ་ཡིན་ནོ།།

[AKU: Ⓓ 237b2; Ⓟ 271a7] དགེ་སློང་དག་དེ་ལྟར་ན་ངག་གི་སྡིག་པ་མི་དགེ་བའི་ལས་རྣམ་པ་བཞི་བྱས་ཤིང་བསགས་ལ་ཉེ་བར་བསགས་པས་རྣམ་པར་སྨིན་པ་མི་དགའ་ཞིང་སྡུག་བསྔལ་བ་འབྱིན་པར་འགྱུར་རོ།།

[中：437c21] 是謂口故作四業，不善與苦果受於苦報。

[AN: 298.1] Evaṃ kho bhikkhave catubbidhā vacīkammantasandosavyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti.

1-1-5. 意の三業

[KP: Ⓓ 174a1; Ⓟ 210a7; Ⓝ 192b1] དགེ་སློང་དག་ཡིད་ཀྱིས་ཆེད་དུ་བྱས་པའི་ལས་རྣམ་པ་གསུམ་བྱས་ཤིང་བསགས་པ། མི་དགེ་བ་སྡུག་བསྔལ་བསྐྱེད་པ། རྣམ་པར་སྨིན་པ་སྡུག་བསྔལ་བ་ཇི་ལྟ་བུ་ཞེ་ན།

[AKU: Ⓓ 237b3; Ⓟ 271a7] དགེ་སློང་དག་ཇི་ལྟར་ན་ཡིད་ཀྱི་ལས་རྣམ་པ་གསུམ་བྱས་ཤིང་བསགས་ཏེ་ཉེ་བར་བསགས་པ་རྣམ་པར་སྨིན་པ་སྡུག་བསྔལ་ཞིང་མི་དགེ་བ་དེ་གང་ཞེ་ན།

[中：437c22] 云何意故作三業，不善與苦果受於苦報。

[AN: 298.3] Kathañ ca bhikkhave tividhā manokammantasandosavyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti?

cf. [SA: 400.15] kathaṃ bhikṣavas trividhaṃ manasā saṃcetanīyaṃ karma kṛtaṃ bhavaty upacitaṃ / yathā 'pīhaikatyo 'bhidhyālur bhavati / vyāpanna-cittaḥ yāvan mithyā-dṛṣṭiḥ / khalu bhikṣava ihaikatyo bhavati viparīta-darśī 'ti vistaraḥ /

1-1-5-1. 貪欲者

[KP: Ⓓ 174a2; Ⓟ 210a8; Ⓝ 192b1] བརྣབ་སེམས་ནི་ཕ་རོལ་གྱི་རྫས་རྣམས་དང་། ཕ་རོལ་གྱི་ནོར་རྣམས་དང་། ཕ་རོལ་གྱི་ཡོ་བྱད་རྣམས་མཐོང་ན། བརྣབ་སེམས་སྐྱེད་པར་བྱེད་དེ། ཀྱི་མ་འདི་དག་བདག་ལ་ཡོད་ཀྱང་ཇི་མ་རུང་སྙམ་སྟེ། བརྣབ་སེམས་མ་སྤངས་པ་ཡིན་ནོ།།

[AKU: Ⓓ 237b3; Ⓟ 271a8] ཁ་ཅིག་བརྣབ་སེམས་ཅན་དུ་གྱུར་ཏེ། འདོད་པ་རྣམས་ལ་ཡང་དག་པར་ཆགས་པ་དྲག་པོ་སྟེ། གཞན་གྱི་རྫས་དང་། གཞན་གྱི་ནོར་དང་། གཞན་གྱི་ཉེ་བར་མཁོ་བ་རྣམས་ལ་བརྣབ་སེམས་སྐྱེ་བ་དེ་གཞན་གྱི་དེ་བདག་གིར་གྱུར་ཀྱང་ཅི་མ་རུང་ཞེས་བརྣབ་སེམས་ལས་མ་ལོག་པར་གྱུར་བའོ།།

[中：437c23] 一曰貪伺。見他財物・諸生活具，常伺求望，欲令我得。

[AN: 298.5 (293.24)] Idha bhikkhave ekacco abhijjhālu hoti, yan taṃ parassa paravittūpakaraṇaṃ, taṃ abhijjhitā hoti, 'aho vata yaṃ parassa, taṃ mama assā' ti.

1-1-5-2. 瞋恚者

[KP: Ⓓ 174a2; Ⓟ 210b1; Ⓝ 192b3] གནོད་སེམས་ཀྱིས་སྡང་བར་བྱེད་པ་ནི། ཀྱི་མ་སེམས་ཅན་འདི་དག་བཀྱབ་ཀྱང་རུང་ངོ་།། བསད་ཀྱང་རུང་ངོ་།། ཉམས་པར་བྱས་ཀྱང་རུང་ངོ་།། མི་རིགས་པར་ཉོན་མོངས་ཀྱང་རུང་ངོ་སྙམ་པ་ནི་གནོད་སེམས་ཀྱི་སྡང་བ་མ་སྤངས་པ་ཡིན་ནོ།།

[AKU: Ⓓ 237b4; Ⓟ 271b2] ཁ་ཅིག་གནོད་སེམས་ཅན་དུ་གྱུར་ཏེ། གདུག་པའི་ཡིད་ཀྱིས་རྣམ་པར་རྟོག་པ་འདི་སྙམ་དུ་སེམས་ཅན་ཁྱེད་རྣམས་ཉམས་ཤིང་ཕམ་ལ་དོན་མ་ཡིན་པ་ཕོངས་པ་ཕོབ་པར་གྱུར་ཅིག་ཅེས་གནོད་སེམས་ལས་མ་ལོག་པར་གྱུར་པའོ།།

[中：437c25] 二曰嫉恚。意懷憎嫉而作是念。彼有情者。應殺應縛應收應免應逐擯出。其欲令彼受無量苦。

[AN: 298.5 (293.26)] Vyāpannacitto hoti paduṭṭhamanasaṅkappo ‘ime sattā haññantu vā bajjhantu vā ucchijjantu vā vinassantu vā mā vā ahesuṃ iti vā’ ti.

1-1-5-3. 邪見者

[KP: Ⓓ 174a3; Ⓟ 210b3; Ⓝ 192b3] ལོག་པར་ལྟ་བ་ནི་ཕྱིན་ཅི་ལོག་ཏུ་ལྟ་ཞིང་འདི་ལྟར་ལྟ་ལ། འདི་སྐད་དུ་སྨྲ་སྟེ། སྦྱིན་པ་མེད་དོ།། མཆོད་སྦྱིན་མེད་དོ།། སྦྱིན་སྲེག་མེད་དོ།། ལེགས་པར་སྤྱད་པ་མེད་དོ།། ཉེས་པར་སྤྱད་པ་མེད་དོ།། ལེགས་པར་སྤྱད་པ་དང་། ཉེས་པར་སྤྱད་པའི་ལས་རྣམས་ཀྱི་འབྲས་བུ་རྣམ་པར་སྨིན་པ་མེད་དོ།། འཇིག་རྟེན་འདི་མེད་དོ།། འཇིག་རྟེན་ཕ་རོལ་མེད་དོ།། ཕ་མེད་དོ།། མ་མེད་དོ།། སེམས་ཅན་སྐྱེ་བ་མེད་དོ།། འཇིག་རྟེན་ན་དགྲ་བཅོམ་པ་ཡང་དག་པར་སོང་བ་ཡང་དག་པར་ཞུགས་པ་གང་འཇིག་རྟེན་འདི་དང་འཇིག་རྟེན་ཕ་རོལ་ཚེ་འདི་ཉིད་ལ་བདག་ཉིད་ཀྱིས་མངོན་པར་ཤེས་པས་མངོན་སུམ་དུ་བྱས་ཏེ། བསྒྲུབས་ནས་ཁོང་དུ་ཆུད་དེ། བདག་ཅག་གི་སྐྱེ་བ་ཟད་དོ།། ཚངས་པར་སྤྱད་པ་བསྟེན་ཏོ།། བྱ་བ་བྱས་སོ།། འདི་ལས་སྲིད་པ་གཞན་གྱི་ཤེས་སོ་སྙམ་དུ་སེམས་པ་མེད་དོ་ཞེས་བྱ་བ་ནི་ལོག་པར་ལྟ་བ་མ་སྤངས་པ་ཡིན་ནོ།།

[AKU: Ⓓ 237b5; Ⓟ 271b3] ཁ་ཅིག་ལོག་པར་ལྟ་བ་ཅན་དུ་གྱུར་ཏེ། དེ་ལྟ་བ་ཕྱིན་ཅི་ལོག་པས་འདི་ལྟར་ལྟ་ཞིང་འདི་སྐད་དུ་སྨྲ་སྟེ། སྦྱིན་པ་མེད་པ།། མཆོད་སྦྱིན་མེད་དོ།། ལེགས་པར་སྤྱད་པ་མེད་དོ།། ཉེས་པར་སྤྱད་པ་མེད་དོ།། ལེགས་པར་སྤྱད་པ་དང་ཉེས་པར་སྤྱད་པའི་ལས་ཀྱི་འབྲས་བུ་རྣམ་པར་སྨིན་པ་མེད་དོ།། འཇིག་རྟེན་འདི་མེད་དོ།། འཇིག་རྟེན་ཕ་རོལ་མེད་དོ།། ཕ་མེད་དོ།། མ་མེད་དོ།། སེམས་ཅན་རྫུས་ཏེ་བྱུང་བ་རྣམས་མེད་དོ།། འཇིག་རྟེན་ན་དགྲ་བཅོམ་པ་ཡང་དག་པར་སོང་ཞིང་ཡང་དག་པར་རྟོགས་པ་འཇིག་རྟེན་འདི་དང་ཕ་རོལ་དུ་མཐོང་བའི་ཆོས་ཉིད་ལ་རང་ཉིད་ཀྱིས་མངོན་པར་ཤེས་ལ་ཕུན་སུམ་ཚོགས་པ་མངོན་སུམ་དུ་བྱས་ཏེ། བདག་གི་སྐྱེ་བ་ཟད་དོ།། ཚངས་པར་སྤྱོད་པ་བསྟེན་ཏོ།། བྱ་བ་བྱས་སོ།། སྲིད་པ་འདི་ལས་གཞན་མི་ཤེས་སོ་ཞེས་བྱ་བ་མེད་དོ། ཞེས་ལོག་པར་ལྟ་བ་ལས་མ་ལོག་པར་གྱུར་བ་དག་གོ།

[中：437c27] 三曰邪見。所見顚倒，如是見・如是說。「無施・無齋・無有咒說・無善惡業・無善惡業報・無此世彼世・無父無母，世無眞人往至善・處善・去善・向此世彼世・自知・自覺・自作證・成就遊。

[AN: 298.5 (293.29)] Micchādiṭṭhiko hoti viparītadassano ‘natthi dinnaṃ natthi yiṭṭhaṃ natthi hutaṃ, natthi sukaṭadukkaṭānaṃ kammānaṃ phalaṃ vipāko, natthi ayaṃ loko natthi paro loko, natthi mātā natthi pitā natthi sattā opapātikā, natthi loke samaṇabrāhmaṇā sammaggatā sammāpa-ṭipannā, ye imañ ca lokaṃ parañ ca lokaṃ sayaṃ abhiññā sac-chikatvā pavedentī’ ti.

1-1-5-4. 意業結語

[KP: Ⓓ 174a6; Ⓟ 210b7; Ⓝ 192b7] དགེ་སློང་དག་དེ་ལྟར་ན་ཡིད་ཀྱིས་ཆེད་དུ་བྱས་པའི་ལས་རྣམ་པ་གསུམ་བྱས་ཤིང་བསགས་པ། མི་དགེ་བ་སྡུག་བསྔལ་བསྐྱེད་པ། རྣམ་པར་སྨིན་པ་སྡུག་བསྔལ་བ་ཡིན་ནོ།།

[AKU: Ⓓ 238a1; Ⓟ 271b7] དགེ་སློང་དག་འདི་ལྟར་ཡིད་ཀྱི་སྡིག་པ་མི་དགེ་བའི་ལས་རྣམ་པ་གསུམ་བྱས་ཤིང་བསགས་ལ་ཉེ་བར་བསགས་པས་རྣམ་པར་སྨིན་པ་མི་དགའ་ཞིང་སྡུག་བསྔལ་བ་དགའ་བྱིན་པར་འགྱུར་རོ།།

[中：438a2] 是謂意故作三業，不善與苦果受於苦報。

[AN: 298.6] Evaṃ kho bhikkhave tividhā manokammantasandosavyāpatti akusalasañcetanikā dukkhudrayā dukkhavipākā hoti.

1-1-5'. 三種業結語(21)

[KP: -]

[AKU: -]

[中: -]

[AN: 298.8] Tividhakāyakammantasandosavyāpatti-akusalasañcetanikāhetu vā bhikkhave sattā kāyassa bhedā parammaraṇā apāyaṃ duggatiṃ vinipātaṃ nirayaṃ upapajjanti, catubbidhavacīkammanta ...pe... tividhamanokammantasandosavyāpatti-akusalasañcetanikāhetu vā bhikkhave sattā kāyassa bhedā parammaraṇā apāyaṃ duggatiṃ vinipātaṃ nirayaṃ upapajjanti.

1-1-5". 十善業道(22)

[KP: -]

[AKU: -]

[中: -]

[AN: 298.15] Nāhaṃ bhikkhave sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃviditvā vyantibhāvaṃ vadāmi, tañ ca kho diṭṭh' eva dhamme upapajjaṃ vā apare vā pariyāye. Na tvevāhaṃ bhikkhave sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃviditvā dukkhass' antakiriyaṃ vadāmi. Tatra kho bhikkhave tividhā kāyakammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti, catubbidhā vacīkammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti, tividhā manokammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti. Kathañ ca bhikkhave tividhā kāyakammantasampatti

kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti? ...pe... Evaṃ kho bhikkhave tividhā kāyakammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti. Kathañ ca bhikkhave catubbidhā vacīkammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti? ...pe...Evaṃ kho bhikkhave catubbidhā vacīkammantasampatti hoti. Kathañ ca bhikkhave tividhā manokammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti? ...pe... Evaṃ kho bhikkhave tividhā manokammantasampatti kusalasañcetanikā sukhudrayā sukhavipākā hoti. Tividhakāyakammantasampattikusalasañcetanikāhetu vā bhikkhave sattā kāyassa bhedā parammaraṇā sugatiṃ saggaṃ lokaṃ upapajjanti, catubbidhavacīkammanta ...pe... tividhamanokammantasampattikusalasañcetanikāhetu vā bhikkhave sattā kāyassa bhedā parammaraṇā sugatiṃ saggaṃ lokaṃ upapajjanti. ...pe...

1-1-6. 四無量心

1-1-6-1.

[KP: Ⓓ 174a7; Ⓟ 210b8; Ⓝ 192b7] དགེ་སློང་དག་དེ་ལ་ཐོས་པ་དང་ལྡན་པའི་འཕགས་པ་ཉན་ཐོས་ནི། ལུས་ཀྱི་ལས་མི་དགེ་བ་སྤངས་ནས། ལུས་ཀྱི་ལས་དགེ་བ་སྒོམ་པར་བྱེད་དོ།། ངག་གི་ལས་མི་དགེ་བ་སྤངས་ནས། ངག་གི་ལས་དགེ་བ་སྒོམ་པར་བྱེད་དོ།། ཡིད་ཀྱི་ལས་མི་དགེ་བ་སྤངས་ནས། ཡིད་ཀྱི་ལས་དགེ་བ་སྒོམ་པར་བྱེད་དོ།། དེ་བྱམས་པ་དང་ལྡན་པའི་སེམས་ཁོན་མེད་པ་དང་། གཙུགས་མེད་པ་དང་། གནོད་པ་མེད་པ་དང་། རྒྱ་ཆེ་བ་དང་། ཆེན་པོར་གྱུར་པ་དང་། ཚད་མེད་པས་ཕྱོགས་གཅིག་ཏུ་མོས་པར་བྱས་ཏེ། ཁྱབ་པར་བྱས་ནས་བསྒྲུབས་ཏེ་གནས་སོ།། ཕྱོགས་གཉིས་པ་ཡང་དེ་བཞིན་ནོ།། གསུམ་པ་ཡང་དེ་བཞིན་ནོ།། བཞི་པ་ཡང་དེ་བཞིན་ནོ།། སྟེང་དང་འོག་དང་། ཐད་ཀ་ཐམས་ཅད་དུ་ཡང་དེ་བཞིན་ཏེ། འཇིག་རྟེན་འདི་ཐམས་ཅད་བྱམས་པ་དང་ལྡན་བའི་སེམས་ཀྱིས་མོས་པར་བྱས་ཏེ། ཁྱབ་པར་བྱས་ནས་བསྒྲུབས་ཏེ་གནས་སོ།། དེ་འདི་སྙམ་དུ་སེམས་ཏེ། བདག་གིས་སེམས་འདི་སྔོན་ནི་ཆུང་ངུར་གྱུར་པ་ལ་མ་བསྒོམས། དེ་ནི་བདག་གི་སེམས་འདི་ཚད་མེད་ཅིང་། རྒྱ་ཆེ་ལ་བསྒོམས་པ་ཡིན་ནོ་སྙམ་མོ།།

[AKU: Ⓓ 238a2; Ⓟ 271b8] དགེ་སློང་དག་དེ་ལ་འཕགས་པ་ཉན་ཐོས་ལུས་ཀྱི་མི་དགེ་བའི་ཆོས་རྣམས་སྤོང་ཞིང་ལུས་ཀྱི་དགེ་བའི་ཆོས་རྣམས་སྒོམ་པར་བྱེད་དོ།། ངག་དང་ཡིད་ཀྱིས་མི་དགེ་བའི་ཆོས་རྣམས་སྤོང་ཞིང་ངག་དང་ཡིད་ཀྱིས་དགེ་བའི་ཆོས་རྣམས་སྒོམ་པར་བྱེད་དོ།། བྱམས་པ་དང་ལྡན་ཅིག་པའི་སེམས་ཁོན་མེད་པ་འགྲན་ཟླ་མེད་པ། གནོད་པ་མེད་པ། ཡངས་པ་ཐམས་ཅད་དུ་སོང་བ་ཚད་མེད་པ་ལེགས་པར་བསྒོམས་པས་ཕྱོགས་གཅིག་ཏུ་ཁྱབ་པར་བྱས་ནས་ཡོངས་སུ་རྫོགས་པར་བྱས་ཏེ་གནས་སོ།། དེ་བཞིན་དུ་གཉིས་པ་དང་། དེ་བཞིན་དུ་གསུམ་པ་དང་། དེ་བཞིན་དུ་བཞི་པ་དང་། སྟེང་དང་འོག་དང་ལོགས་ཀྱི་འཇིག་རྟེན་འདི་ཐམས་ཅད་ཀྱི་ཐམས་ཅད་དུ་བྱམས་པ་དང་ལྡན་ཅིག་པའི་སེམས་ཁོན་མེད་ཅིང་འགྲན་ཟླ་མེད་པ་གནོད་པ་མེད་པ་ཡངས་པ་ཐམས་ཅད་དུ་སོང་བ་ཚད་མེད་པ་ལེགས་པར་བསྒོམས་པས་ཁྱབ་པར་བྱས་ནས་ཡོངས་སུ་རྫོགས་པར་བྱས་ནས་གནས་སོ།། དེ་འདི་སྙམ་དུ་སྔོན་བདག་གི་སེམས་མ་བསྒོམས་ཤིང་ཆུང་ངུར་གྱུར་པ་དེ་ལྟར་བདག་གི་ཚད་མེད་ཅིང་ལེགས་པར་སྒོམ་པར་བྱའོ་སྙམ་པའོ།།

[中：438a3] 多聞聖弟子，捨身不善業・修身善業，捨口意不善業・修口意善業。彼多聞聖弟子，如是具足精進戒德，成就身淨業・成就口意淨業，離恚・離諍，除去睡眠，無調貢高，斷疑度慢，正念正智，無有愚癡。彼心與慈俱，遍滿一方成就遊。如是二・三・四方・四維・上下，普周一切，心與慈俱，無結・無怨・無恚・無諍，極廣甚大無量善修，遍滿一切世間成就遊。彼作是念。『我本此心少不善修，我今此心無量善修。』

[AN: 299.12] Nāhaṃ bhikkhave sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃviditvā vyantibhāvaṃ vadāmi, tañ ca kho diṭṭh' eva dhamme upapajjaṃ vā apare vā pariyāye. Na tvevāhaṃ bhikkhave sañcetanikānaṃ kammānaṃ katānaṃ upacitānaṃ appaṭisaṃviditvā dukkhass' antakiriyaṃ vadāmi. Sa kho so bhikkhave ariyasāvako evaṃ vigatābhijjho vigatavyāpādo asammūḷho sampajāno patissato mettāsahagatena cetasā ekaṃ disaṃ pharitvā viharati, tathā dutiyaṃ, tathā tatiyaṃ, tathā catutthaṃ. Iti uddham adho tiriyaṃ sabbadhi sabbatthatāya sabbāvantaṃ lokaṃ mettāsahagatena cetasā vipulena mahaggatena appamāṇena averena avyāpajjhena pharitvā viharati. So evaṃ pajānāti 'pubbe kho me idaṃ cittaṃ parittaṃ ahosi abhāvitaṃ, etarahi pana me idaṃ cittaṃ appamāṇaṃ subhāvitaṃ, yaṃ kho pana kiñci pamāṇakataṃ kammaṃ, na taṃ tatrāvasissati, na taṃ tatrāvatiṭṭhatī' ti.

cf. [法：455a27] 一時薄伽梵在室羅筏，住逝多林給孤獨園。爾時世尊告苾芻衆。「有四無量。何等爲四。謂有一類慈俱行心，無怨・無敵・遠離惱害，廣大無量善修習故，想對一方，勝解遍滿具足而住。及對第二・第三・第四・上下・或傍，一切世間亦復如是。是名第一。

1-1-6-2.

[KP: Ⓓ 174b3; Ⓟ 211b1; Ⓝ 193a4] དགེ་སློང་དག་འཕགས་པ་ཉན་ཐོས་ཀྱི་སེམས་ནི་ཚད་མེད་ཅིང་རྒྱ་ཆེ་ལ་ཤིན་ཏུ་བསྒོམས་པ་ཡིན་ཏེ། དེའི་སྔོན་ཚད་ཡོད་པར་གྱུར་པ་གང་ཡིན་པ་དེས་དེ་བགྲི་བར་མི་འགྱུར་རོ།། དེ་དེར་གནས་པར་ཡང་མི་འགྱུར་རོ།། དེ་དེར་བགྲང་བར་ཡང་མི་འགྱུར་རོ།།

[AKU: Ⓓ 238a5; Ⓟ 272a5] དགེ་སློང་དག་འཕགས་པ་ཉན་ཐོས་ཐོས་པ་དང་ལྡན་པའི་སེམས་བག་མེད་པ་མི་སྲིད་ཅིང་མི་ལྡུང་ལ་མི་གནས་ཤིང་འགྲང་བར་ཡང་མི་འགྱུར་རོ།།

[中：438a12] 多聞聖弟子，其心如是無量善修，若本因惡知識，爲放逸行作不善業，彼不能將去・不能穢汙・不復相隨。

[AN -]

1-1-6-3.

[KP: Ⓓ 174b4; Ⓟ 211b1; Ⓝ 193a5] དགེ་སློང་དག་གལ་ཏེ་བྱིས་པ་གཞོན་ནུ་འམ། གཞོན་ནུ་མ་ཡང་རུང་སྟེ། ཐོག་མ་ནས་བྱམས་པ་སེམས་ཀྱི་ཏིང་ངེ་འཛིན་བསྒོམས་ན་ཡང་ཅི་ལུས་སམ། ངག་གམ་ཡིད་ཀྱིས་སྡིག་པའི་ལས་བྱེད་པར་འགྱུར་རམ། བཙུན་པ་དེ་ནི་མ་ལགས་སོ།།

[AKU: Ⓓ 238a6; Ⓟ 272a5] དགེ་སློང་དག་ཁྱེའུ་དང་བུ་མོ་བྱམས་པའི་སེམས་ཀྱི་ཏིང་ངེ་འཛིན་སྒོམ་པར་བྱེད་པ་ཡང་སྡིག་པ་མི་དགེ་བའི་ལས་འདི་ལྟ་སྟེ་ལུས་དང་ངག་དང་ཡིད་ཀྱི་ལས་བྱེད་ཅིང་ཉེ་བར་སོགས་པར་འགྱུར་རམ། གཞན་དག་ལས་ཡུན་རིང་པོ་དོན་མ་ཡིན་པ་མི་ཕན་པ་དང་སྡུག་བསྔལ་དེ་ལྟ་དེ་ལྟར་སྟོན་པར་འགྱུར་རམ། བཙུན་པ་མ་ལགས་སོ།།

[中：438a15] 若有幼少童男・童女，生便能行慈心解脱者，而於後時彼身・口・意，寧可復作不善業耶。」比丘答曰。「不也，世尊。」

[AN: 300.1] Taṃ kiṃ maññatha bhikkhave ‘dahara-t-agge ce so ayaṃ kumāro mettācetovimuttiṃ bhāveyya, api nu kho pāpakammaṃ kareyyā’ ti? No h’etaṃ bhante. ‘Akarontaṃ kho pana pāpakammaṃ api nu kho dukkhaṃ phuseyyā’ ti? No h’etaṃ bhante, akarontaṃ hi bhante pāpakammaṃ kuto dukkhaṃ phusissatī ti?

1-1-6-4.

[KP: Ⓓ 174b5; Ⓟ 211b1; Ⓝ 193a6] དགེ་སློང་དག་ལེགས་སོ་ལེགས་སོ།། བྱམས་པའི་སེམས་ཀྱི་ཏིང་ངེ་འཛིན་ནི་སྐྱེས་པ་ཡང་རུང་། བུད་མེད་ཀྱང་རུང་། ཁྱིམ་པ་ཡང་རུང་། རབ་ཏུ་བྱུང་བ་ཡང་རུང་བས་བསྒོམ་པར་བྱའོ།། དེ་ཅིའི་ཕྱིར་ཞེ་ན། སྐྱེས་པ་ཡང་རུང་། བུད་མེད་ཀྱང་རུང་། ཁྱིམ་པ་ཡང་རུང་། རབ་ཏུ་བྱུང་བ་ཡང་རུང་བས་ནི། ལུས་འདི་ཁྱེར་ཏེ་འགྲོ་བར་མི་འགྱུར་བའི་ཕྱིར་རོ།། དགེ་སློང་དག་མི་ནི་སེམས་ཀྱི་རྒྱུ་ལས་འབྱུང་བ་ཡིན་ཏེ། སེམས་ལ་བརྟེན་ཅིང་། སེམས་ལ་རག་ལས་ལ་སེམས་ལ་བརྟེན་ནས་དབང་བྱེད་དོ།།

[AKU: Ⓓ 238a7; Ⓟ 272a7] དགེ་སློང་དག་ལེགས་སོ།། ལེགས་སོ།། དགེ་སློང་དག་སྐྱེས་པ་འམ། བུད་མེད་དམ། ཁྱིམ་པ་འམ། རབ་ཏུ་བྱུང་བས་ཀྱང་བྱམས་པའི་སེམས་ཀྱི་ཏིང་ངེ་འཛིན་བསྒོམ་པར་བྱའོ།། དགེ་སློང་དག་དེ་ཅིའི་ཕྱིར་ཞེ་ན།། སྐྱེས་པ་དང་བུད་མེད་དང་ཁྱིམ་པ་དང་རབ་ཏུ་བྱུང་བ་དག་ཀྱང་ལུས་འདི་བཏང་ནས་ཕ་རོལ་དུ་འགྲོ་བར་འགྱུར་ཏེ། དགེ་སློང་དག་སེམས་ཀྱི་རྗེས་སུ་འགྲོ་བར་སེམས་ལ་བརྟེན་པ་སེམས་ཀྱིས་བཅིངས་པ་སེམས་ལ་བརྟེན་ཏེ་འདུག་པའོ།།

[中：438a17]「所以者何。自不作惡業，惡業何由生。是以男・女・在家・出家，常當勤修慈心解脱。若彼男・女・在家・出家，修慈心解脱者，不持此身往至彼世，但隨心去此。

[AN: 300.7] Bhāvetabbā kho panāyaṃ bhikkhave mettācetovimutti itthiyā vā purisena vā. Itthiyā vā bhikkhave purisassa vā nāyaṃ kāyo ādāya gamanīyo, cittantaro ayaṃ bhikkhave macco.

1-1-6-5.

[KP: Ⓓ 174b7; Ⓟ 211b3; Ⓝ 193b1] ལུས་འདིས་སྔོན་སྡིག་པ་མི་དགེ་བའི་ལས་བྱས་ཤིང་བསགས་པ། མི་དགེ་བ་སྡུག་བསྔལ་བསྐྱེད་པ། རྣམ་པར་སྨིན་པ་སྡུག་བསྔལ་བ་གང་ཡིན་པ་དེ་དག་ཐམས་ཅད་འདིར་མྱོང་བར་འགྱུར་ཏེ། ཚེ་འདི་ཉིད་ལ་མྱོང་བར་འགྱུར་གྱི། སྐྱེས་པའི་འོག་དང་། ལན་གྲངས་གཞན་ལ་མ་ཡིན་ནོ།། དགེ་སློང་དག་དེ་ལྟར་བྱམས་པའི་ཏིང་ངེ་འཛིན་བསྒོམས་པ་ནི། གལ་ཏེ་གོང་དུ་རྟོགས་པར་མ་བྱས་ན་ཡང་ཕྱིར་མི་འོང་བར་གནས་པར་འགྱུར་རོ།།

[AKU: Ⓓ 238b1; Ⓟ 272b1] དགེ་སློང་དག་འགའ་ཞིག་འདི་སྙམ་དུ་ནི་ལུས་འདི་ཉིད་ཀྱིས་སྔོན་སྡིག་པ་མི་དགེ་བའི་ལས་བྱས་ཤིང་བསགས་ལ་ཉེ་བར་བསགས་པ་དེ་ཐམས་ཅད་འདི་ལ་མྱོང་བར་གྱུར་ཅིག་སྐྱེས་ནས་དང་ལན་གྲངས་གཞན་ལ་མྱོང་བར་མ་གྱུར་ཅིག་ཅེས་དགེ་སློང་དག་དེ་ལྟར་བྱམས་པའི་སེམས་ཀྱི་ཏིང་ངེ་འཛིན་དང་ལྡན་ན་ཕྱིར་མི་ལྡོག་པར་གནས་ཤིང་བླ་ན་མེད་པའི་ཆོས་སོ་སོར་རིག་པར་གྱུར་ཏེ།

[中：438a21] 比丘應作是念。『我本放逸作不善業，是一切今可受報，終不後世。』若有如是行慈心解脱無量善與者，必得阿那含，或復上得。」

[AN: 300.10] So evaṃ pajānāti: Yaṃ kho me idha kiñci pubbe iminā karajakāyena pāpakammaṃ kataṃ, sabban taṃ idha vedanīyaṃ, na taṃ anugaṃ bhavissatī ti. Evaṃ bhāvitā kho bhikkhave mettācetovimutti anāgāmitāya saṃvattati, idha pañň'assa bhikkhuno uttariṃ vimuttiṃ appaṭivijjhato ti.

1-1-6-6.

[KP: Ⓓ 175a1; Ⓟ 211b6; Ⓝ 193b3] དགེ་སློང་དག་གཞན་ཡང་ཐོས་པ་དང་ལྡན་པའི་འཕགས་པ་ཉན་ཐོས་ནི། ལུས་ཀྱི་ལས་མི་དགེ་བ་སྤངས་ནས་ཞེས་བྱ་བ་ནས། རྒྱས་པར་སྙིང་རྗེ་དང་ལྡན་པ་དང་། དགའ་བ་དང་ལྡན་པ་དང་། བཏང་སྙོམས་དང་ལྡན་པ་ཡང་དེ་བཞིན་དུ་བརྗོད་པར་བྱ་སྟེ། དེ་སྐད་ཅེས་བཀའ་སྩལ་ཏོ།།

[AKU: Ⓓ 238b3; Ⓟ 272b3] དེ་ལ་འཕགས་པ་ཉན་ཐོས་ཐོས་པ་དང་ལྡན་པ་ལུས་ཀྱི་སྡིག་པ་མི་དགེ་བ་རྣམས་སྤང་ཞིང་ལུས་ཀྱི་དགེ་བའི་ལས་རྣམས་སྒོམ་པར་བྱེད་དོ།། ངག་དང་ཡི་ཀྱི་སྡིག་པ་མི་དགེ་བའི་ལས་རྣམས་སྤོང་ཞིང་ངག་དང་ཡིད་ཀྱི་དགེ་བའི་ལས་རྣམས་སྒོམ་པར་བྱེད་དོ།། དེ་སྙིང་རྗེ་དང་དགའ་བ་དང་བཏང་སྙོམས་དང་ལྡན་ཅིག་པའི་སེམས་ཞེས་བྱ་བ་ནས་སྔམ་བཞིན་དུ་དགེ་སློང་དག་དེ་ལྟར་བཏང་སྙོམས་ཀྱི་སེམས་ཏིང་ངེ་འཛིན་དང་ལྡན་ན་ཕྱིར་མི་ལྡོག་པར་གནས་ཤིང་བླ་ན་མེད་པའི་ཆོས་སོ་སོར་རིག་པར་འགྱུར་རོ་ཞེས་བྱ་བའི་བར་དུ་གསུངས་སོ།།

[中：438a24] 如是悲・喜。「心與捨倶，無結・無怨・無恚・無諍，極廣甚大無量善修，遍滿一切世間成就遊，彼作是念。『我本此心少不善修，我今此心無量善修。』多聞聖弟子，其心如是無量善修，若本因惡知識，爲放逸行作不善業，彼不能將去・不能穢汙・不復相隨。若有幼少童男・童女，生便能行捨心解脱者，而於後時彼身・口・意，寧可復作不善業耶。」比丘答曰。「不也，世尊。」「所以者何。自不作惡業，惡業何由生。是以男・女・在家・出家，常當勤修捨心解脱。若彼男・女・在家・出家，修捨心解脱者，不持此身往至彼世，但隨心去此。比

丘應作是念。『我本放逸作不善業，是一切今可受報，終不後世。』若有如是行捨心解脱無量善修者，必得阿那含，或復上得。」佛說如是。彼諸比丘聞佛所說，歡喜奉行。

[AN: 300.16] Karuṇāsahagatena cetasā... muditāsahagatena cetasā... upekhāsahagatena cetasā ekaṃ disaṃ pharitvā viharati, tathā dutiyaṃ, tathā tatiyaṃ, tathā catutthaṃ. Iti uddham adho tiriyaṃ sabbadhi sabbattatāya sabbāvantaṃ lokaṃ upekkhāsahagatena cetasā vipulena mahaggatena appamāṇena averena avyāpajjhena pharitvā viharati. So evaṃ pajānāti 'pubbe kho me idaṃ cittaṃ parittaṃ ahosi abhāvitaṃ, etarahi pana me idaṃ cittaṃ appamāṇaṃ subhāvitaṃ, yaṃ kho pana kiñci pamāṇakataṃ kammaṃ na taṃ tatrāvasissati, na taṃ tatrāvatiṭṭhati. Taṃ kiṃ maññatha bhikkhave 'dahara-t-agge ce so ayaṃ kumāro upekhācetovimu-ttiṃ bhāveyya, api nu kho pāpakammaṃ kareyyā' ti? No h'etaṃ, bhante. 'Akarontaṃ kho pana pāpakammaṃ api nu kho dukkhaṃ phuseyyā' ti? No h'etaṃ bhante, akarontaṃ hi bhante pāpakammaṃ kuto dukkhaṃ phusissatī ti? Bhāvetabbā kho panāyaṃ bhikkhave upekhācetovimutti itthiyā vā purisena vā. Itthiyā vā bhikkhave purisassa vā nāyaṃ kāyo ādāya gamanīyo, cittantaro ayaṃ bhikkhave macco. So evaṃ pajānāti: Yaṃ kho me idha kiñci pubbe iminā karajakāyena pāpakammaṃ kataṃ, sabban taṃ idha vedanīyaṃ, na taṃ anugaṃ bhavissatī ti. Evaṃ bhāvitā kho bhikkhave upekhācetovimutti anāgāmitāya saṃvattati, idha pañña' assa bhikkhuno uttariṃ vimuttiṃ appaṭivijjhato ti.

cf. **[法：485b3]** 復有一類悲俱行心，無怨・無敵・遠離惱害，廣大無量善修習故，想對一方，勝解遍滿具足而住。及對第二・第三・第四・上下・或傍，一切世間亦復如是。是名第二。復有一類喜俱行心，無怨・無敵・遠離惱害，廣大無量善修習故，想對一方，勝解遍滿具足而住。及對第二・第三・第四・上下・或傍，一切世間亦復如是。是名第三。復有一類捨俱行心，無怨・無敵・遠離惱害，廣大無量善修習故，想對一方，勝解遍滿具足而住。及對第二・第三・第四・上下・或傍，一切世間亦復如是。是名第四。」

註

(1) 青原 [2009a], [2009b], [2010].

(2) 福田 [1998], [1999], [2000], [2001], [2002], [2004a], [2004b], [2007],

[2009].

(3) 先行研究では荒井［1981］の和訳研究があり，これも随時参照した。

(4) 以下の引用経については，付論の諸本対照テキストを参照のこと。

(5) 原文ched du byas shingであるが，下の身・語・意の各説にはchid du byas pa'i las byas shing とあるので補った。

(6) 以下の十業の訳語は玄奘の用いる漢訳語を踏襲することにする。殺生・偸盗・邪婬などの一般的な訳語よりも逐語訳的であり，語義解釈が関わる場面（第三章）などで原文のニュアンスを伝えるのに有効と判断したからである。

(7) ma spangs pa yin no (＝aprativiratah̤).「やめない」「捨てない」が原意であるが，「離殺生」等の漢訳語にもとづいた。「離れる」は単に「間隔を隔てる」の意味ではなく，「職を離れる」の場合のように「やめる」を含意する。この「離れない」の表現が無表の概念に関わることは青原［2010：3-10］で論じた。

(8) nye ba'i nyon mongs pa (＝*upakleśa).

(9) テキストに欠くが補った。

(10) gang gisをngag gisと訂正。

(11) gnod sems kyis sdang bar byed pa ni. 原文のままだと「瞋恚によって憎しみを起こす者は」となるが，他業の文例やAKUなど異本の訳例にしたがって訂正した。

(12) ［加藤ノート］は『沙門果経』の一節（DN. vol. I: 55. 14,『長阿含経』Ⓣvol. 1: 108b14-17）を参照する。DNはアジタ・ケーサカンバラ，『長阿含経』はマッカリ・ゴーサーラの言葉として引いている。

(13) gcugs med pa dang gnod pa med pa. gcugs med pa（仇）はgcugs med pa med paの誤りか。［加藤ノート］はbcug med paと読み，「嫉妬心なく」とする。

(14) gal te gong du rtogs par ma byas na yang phyir mi 'ong bar gnas par 'gyur ro. ［加藤ノート］＝「若し前に分別して，作さざらんには，再生を持せざるなり。」cf. AN: 297. 30 anāgāmitāya sāvattati idha paññ'assa bhikkhuno uttariṃ vimuttiṃ appaṭivijjhato ti.（この世で上位の解脱を通達していない智慧をもつ比丘を不還果に導く），『中阿含経』(Ⓣvol. 1: 438a23)「必得阿那含，或復上得。」，AKU「二度と退失することのない状態にとどまって，無上の法を悟るであらう。」(本庄［1994：68］)

(15) AKBh: 237. 17，玄奘訳Ⓣvol. 29: 84b4，眞諦訳Ⓣvol. 29: 240a29。経名に言及するだけで経文の引用はない。十不善業道中の貪欲・瞋恚・邪見と意業の関係についての有部と譬喩師の間の議論の中で言及されるものであるが，経文の引用なしに議論しうることは，経名を示すだけで内容が了解されるほどよく知られた経であったことを物語る。なお，この『倶舎論』の議論については青原［2009a: 934］で若干触れたが，同様の議論は『婆沙論』(Ⓣvol. 27: 587a10-16)にすでに見られることが荒井［1981：72註(5)］によって指摘されている。筆者は見落としていたので，付け加えておく。

(16) 対応経文のいくつかは荒井［1981］の訳註にも随時引かれているので参照のこと。

(17) cf. 本庄［1994：67-70］. 該当経文の全和訳が付けられている。なお，対照テキストではAKUのナルタン版は参照していない。

(18) ANは，第十篇（Dasakanipāta）のうち十業関連の一群の諸経典の中に見られる。第207経と第208経でそれぞれ十業と四無量心が説かれ，二経に分かれた構成である。しかし両経はまったく独立したものではなく，共通した導入部分をもつ。また第207経には十不善業に対応した十善業も加えられ，その点が他の諸本とは大きく異なる。なお，直前の第206経も第207経の関連経典であり，譬喩を添えることのみが異なる。PTS本の第207経は重複文の省略が多くあるので，ここに掲げるテキストでは省略された該当部分を第206経から補っている。

(19) 本経の前半部分は『法蘊足論』學處品に引かれる経文がよく対応し，Dietz［1984］およびMatsuda［1986］に該当箇所の梵文断片が公表されているので，参考として示す。なお，これらは五学処の解説部分なので，断生命・不与取・欲邪行・虚誑語以外の六業についての引用は存在しない。さらにいえば，これらの所引の経典は五学処のうち不飲酒においては該当する経文が引かれないことから，本来五学処を説いた経文ではなく，十業の教説からの引用と推定される。

また後半の四無量心の部分は『法蘊足論』無量品所引の対応経文を併せて掲載する（梵文なし）。この引用経典は四無量心の修習の説明のみにおわり，『業施設』所引のように不善業を離れ異熟を抑止することが四無量心修習の目的として語られることはない。その経文の形はたとえばSN. V: 115や『雑阿含経』①99. vol. 2: 149c，その他数多くの経典に見られる無量心の定型文であり，多くの場合が業論とは直接無関係の文脈である。おそらく十業と四無量心の教説は本来別々に伝承されていたが，後にそれらが連結されて『中阿含經』のような形ができあがり，その形式の経文が『業施設』やAKUに引用されたと推定される。ANのような二経に分割された形は，その前段階の痕跡を示すか，あるいは連結後に再分割されたか，いずれかの可能性があるが，いずれにしても十業の関連経典に配置されている限りは，四無量心の教説を十業道の文脈に適用しようとする発想があったことは間違いない。

(20) 該当箇所に関しては『婆沙論』異本には欠落した部分なので，玄奘訳のみ示す。

(21) SAには要約的引用が部分的に見られるのみであるが，原語参照のため添える。

(22) ANのみに見られる部分。十業を原因とする堕地獄が語られる。

(23) 同じくANのみに見られる部分。十不善業道に対応する十善業道が同様の表現で語られる。

キーワード　業施設　Karmaprajñapti　故思経